

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 67	福山市立綱引小学校
最終更新日		2023年(令和5年)10月1日

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題解決力、チャレンジ&チェンジする力、つながる力、自己表現力
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが引き込まれる授業は、先生が教材に引き込まれている。先生が「楽しい」「美しい」と表現することが大切。</li> <li>情報活用能力は校区で育成する4つ力と全て関連する。「情報をどう受け止めさせるのか」、「情報と自分たちとの関わりを考えさせること」が大切。</li> <li>先生方に見えている子どもの姿は一面であり、家庭や地域では別の姿を持っていることを大切にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校とも落ち着いた温かい雰囲気の中で、学び合ったり、教え合ったりする姿が多く見られている。</li> <li>新市スタンダードの生活4項目に継続して取り組み、高数値を維持している。</li> <li>課題のあった運動種目について、子供たちに目標を設定させ、体育の授業や家庭でも取り組ませた結果、課題が克服できてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</li> <li>中学校区として統一した取組等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を設定し、情報を比較・分類・関連付けながら解決する児童生徒。</li> <li>自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。</li> <li>互いの良さや違いを認め合い、協働して課題の解決策を導き出す児童生徒。</li> <li>自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。</li> <li>地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる自己表現力を育てていく。</li> <li>新市スタンダード学習5項目(準備、チャイム、話を聞く、姿勢、家庭学習)、生活4項目(挨拶、言葉づかい、身だしなみ、掃除)の徹底を進める。</li> </ul>

## III 自校

ミッション	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題解決力	チャレンジ&チェンジする力	つながる力	自己表現力	
保護者・地域の願いを受け止め、教職員が協力し、「知・徳・体のバランスのとれた教育」「たくましく生きる力を身につけた児童の育成」を目指した学校経営を推進する。	めざす子ども像	12年	自分の考えをもち、順序よく説明している。	苦手なことでも最後まであきらめずにチャレンジしている。	自分の気持ちを話したり、相手の気持ちを理解したりして、友だちと仲よくしている。	自分の思いを相手に伝えることができる。
学校教育目標		34年	自分の考えに根拠をもち、友だちの意見を聞いて比べたり、質問したりしている。	失敗を恐れずチャレンジし、失敗してもそれをもとに次にどうすればよいか考えている。	友だちとの良好な関係を築くために、学級の課題を協力して解決している。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。
心豊かに 自ら学ぶ子どもの育成		56年	情報を比較検討するとともに、深い思考の下で判断し行動している。	リーダー性を身につけ、課題を解決するためにチャレンジし、改善する力がついている。	自分の意思をもち、互いに信頼できる関係を構築し、言葉や表現を選んで伝えられている。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて表現できる。
現状	研究	テーマ	自ら学び続ける児童を育成する主体的で対話的な問題解決学習の創造			
<p>&lt;児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた生活態度で素直。やるべきことをやり切ろうとする児童が多い。</li> <li>全校的に学力の定着に課題を要する。思考力や表現力は個人差が大きい。</li> <li>児童の自己肯定感は、少しずつ高まってきたが、自己有用感は低い傾向にある。</li> <li>地域が好きな児童は多く、地域の中で学んでいる実感をもっている。</li> <li>自分の興味・関心を活かした学習「わくわく学習」が定着し、自分でやりたいことを選択する力や、課題を解決する力、表現する力がついてきている。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科を中心に研究を重ね、課題解決型の授業スタイルが広がっている。</li> <li>キャリア教育推進事業を中学校区で受け、カリキュラムに基づいて、つける力を明確にした授業づくりが進んできている。</li> <li>教材研究を軸に互いに学び合いながら授業をつくっていく研修が不十分。</li> <li>コロナ禍で学び合うスタイルの授業づくりが十分できていない。みんなで学び合い高まり合う授業づくりが必須。</li> </ul>	内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のつながりを意識した授業づくり(理科)</li> <li>○表現力を高める授業づくり(全教科・領域)</li> </ul>				
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教材研究をもとにつける力を明確にもった授業。</li> <li>② 子どもたちの疑問や問いを大事にした授業。</li> <li>③ 学び合いのある授業。</li> <li>④ ふりかえりが充実している授業。</li> </ul>				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立網引小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経 営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
3	子どもが 学びに向 かう力、 学び続け る力を育 成する。	★	継続	課題解 決力を 育する。	・単元のつながり を意識した授業 づくりを実践す る。	・「学ぶって面白い」90%以上 (児童) ・国語・算数・理科 の単元テストにお いて、80点以上の 児童が80%以上 (テスト)	校内研修で授業づくりの方針を示し、方針に 沿って教材研究、学びづくり案検討、授業実 践、研究協議等を行った。授業後の反省を生 かせるよう、職員間で共有した。 ・「学ぶって面白い」のアンケート結果は 94.6%であった。 ・国語・算数・理科の単元テストにおいて80 点以上の児童は国：65.4%、算：71.1%、 理：71.5%であった。	3	2	・学力テストの結果分析か らわかったことをもとに、 対策や取組を考えて実施 する。 ・児童の学ぶ意欲を高める 授業作りについて引き続 き研究し、実践する。				
			継続	チャレ ンジェ ン力を 育成する。	・主体的・継続的 に「わくわく学 習」を進め、評価 する。 ・自分の目標を設 定し、定期的にふ りかえることで 自己を認識する。	・わくわく学習達 成率85%以上 (児童) ・「自分にはよい ところがある」 85%以上(児童)	学習したことを肯定的に評価し、学級だけ でなく全校でも紹介した。(学校だよりへの 掲載、展示ブースの設定等) アンケートの結果 ・わくわく学習の達成率は89.6% ・「自分にはよいところがある」82.8% だった。	3	3	・肯定的評価を学級や全校の中 で行うことで更なる意欲化を 図り、学ぶことの楽しさを味わ わせる。 ・児童の言動や行動を注視し、 良さの発見に努めるとともに 全体の中で肯定的評価をする ことで自己肯定感を高める。				
			継続	つな がを 育成する。	・学びや行事を通 して異学年交流 を工夫する。 ・思いやり行動を 視覚的に表し、価 値づける。	・「異学年交流の場 を計画し、実施し た」90%以上(教 師) ・「人とつながる力 が高まっている。」 90%以上(児童)	縦割りの班での掃除や、集団遊びを企画し実施し てきた。また授業交流として他学年の授業を児 童が観察し、コメントを送り合った。 ・「異学年交流の場を計画し、実施した」の結果、 79%であった。 ・「人とつながる力が高まっている。」の結 果73%であった。	3	2	・授業の中で異学年での関 わりを持たせることでの 意義を整理し、様々な学年 で交流がしやすくなるよ うに啓発していく。 ・異学年交流後のふりかえ りをしていき、価値づけて いく。				
			継続	教職 員の やがい 充実を 高める。	・自分の得意を活 かした研修を設 定し、互いに学び 合う。 ・日常的に互いの 授業を見合い、認 め合う。	・「自分が認められ ている」「仕事にや りがいを感じる」 90%以上(教職員)	各分掌の役割に対し、適切な評価を(言葉か け等)が行われるよう職場の雰囲気づくりを おこなった。 ・「自分が認められている」と回答した教職員の 割合は88%、「仕事にやりがいを感じる」 と回答した教職員の割合は、82%であった。	3	2	・各分掌での役割や校内研 修、管理職による授業観察 などを通して、教職員の達 成感やスキルアップを図 ると同時に、互いの業務に 対する適切な評価を行っ ていく。				
3	地域や地 元企業と 連携した キャリア 教育を推 進する。	★	自己 表を 育する。	・各教科で話すこ と、書くことを取 り入れ表現のスキ ルを磨く。 ・地域のよさを語 る場を設定し、広 げる。	・「話すこと」「書く こと」を単元に位 置つけて実践した 教員90%以上。教 師 ・「地域が好き」 90%以上(児童)	キャッチフレーズを書いたカードを各クラ スに配付し、授業や特別活動の中でそれに 紐つけてスキルの定着を図った。また、昨 年度に引き続きわくわく学習を行い、地域 との関わりの場を作った。 ・「話すこと」「書くこと」を単元に位置付 けて実践した教員は76%であった。 ・「地域が好き」と答えた児童は88.7% だった。	3	2	・各教科の中で話す・書く活 動とともに、積極的にアウト プットをすることで、意欲的 に自己表現力の向上に取り 組めるような実践を行う。 ・授業や行事、わくわく学習 を通して、児童が楽しく地域 と関わる場を作り、地域の良 さに気付けるような支援を 行う。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。